

令和3年度 別府市社会福祉協議会 事業報告

事業報告（総括）

本年も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない1年間となりましたが、「自分らしく過ごせるぬくもりと支え合いのまち別府」実現のための第2次別府市地域福祉活動計画は、計画を2年間延長した5年計画に変更し、計画4年目を経過しました。

この1年間も、コロナの影響による雇用止めや勤務日数制限等による減収で、生活資金が不足した世帯に対する、生活福祉資金貸付の申請受付や生活困窮等の問題を抱えた相談者に寄り添いながら支援をしてきました。

また、昨年度に引き続き感染防止対策を講じながらも、地域福祉活動や計画していた事業等は、中止や延期、事業規模縮小やリモートでの開催など、内容の見直しを行い、今出来ることを実施してきました。

特に、地域団体や社会福祉法人など様々な民間企業と連携する中で地域資源の発見に努めるほか、専門職間のネットワーク構築により包括的支援体制整備に努めました。

また、コロナ禍のため地域住民の地域活動が制限される中での活動となりましたが、サロン活動への参加や出前講座やボランティア養成講座の実施等を通じて、地域課題の把握や担い手の育成に努めました。

さらに、増加する成年後見制度を必要とする人の制度利用促進体制の充実を図るため、成年後見支援センター事務所を建設し、事務スペース及び相談室を確保するほか、新規事業として、身寄りのない高齢者の判断能力が衰える前からの任意後見契約や死後事務を執行する終活サポート事業をスタートしました。

災害に備えた体制整備としては、災害ボランティアネットワークを設立し、関係団体と日頃から、情報交換や研修会や訓練を実施し、災害発生時に災害ボランティア活動が効果的に実施できる体制づくりを推進しました。

最後に、この一年もワクチン接種による効果があったものの、新型コロナウイルスの変異株の出現もあり、依然、感染防止対策のため、日常生活が制限されるなか、with コロナを意識し計画を見直しながら、できる限りの事業実施をいたしました。

以下、令和3年度の各部門の事業等についてご報告します。

総務部門

<情報・発信力の強化>

社協活動及び地域活動や各種団体活動の周知と情報の提供に広報誌「べっぷ社協だより」を毎月全世帯に配布するほか、ホームページでの広報に努めました。また、インスタグラムやラインを開設し情報発信の強化に努めました。今年度においても、市民の方々の声に耳を傾け、地域の活動や情報の拡充に努めます。

<理事会・評議員会・その他委員会機能の活性化>

理事会・評議員会での議案等の資料について、簡素化と明確化を心がけ、議論の活発化に資するような資料作りに努めました。

また、本年度も理事、評議員を含め関係者に定期的な状況を報告することが不十分であり、引き続き運営に参画していただく機会を設けるなど、運営の評価や検証ができる場を検討しています。

□理事会の開催

第1回 令和3年6月1日（火） 決議の省略

理事（同意） 12名 監事（確認） 2名

議題第1号 令和2年度事業報告及び決算報告について

議題第2号 令和3年度収支補正予算について（第1回）

議題第3号 事務所建設及び建設工事に伴う契約方法について

議題第4号 指定居宅介護支援事業所運営規程の一部改正について

議題第5号 評議員選任・解任委員会の委員の選任について

議題第6号 評議員候補者の選任について

議題第7号 令和3年度第1回評議員会の開催について

第2回 令和3年6月30日（水） 15時00分 場所 別府市社会福祉会館

出席 11名 監事出席 1名

議題第1号 会長、副会長及び常務理事の選定について

議案第1号 会長の選定について

議案第2号 副会長（第1順位）の選定について

議案第3号 副会長（第2順位）の選定について

議案第4号 常務理事の選定について

第3回 令和4年3月18日（金） 13時30分 場所 別府市社会福祉会館

出席 12名 監事出席 2名

議題第1号 令和3年度収支補正予算（第2回）について

議題第2号 令和4年度事業計画及び収支予算について

- 議題第3号 定款の一部改正について
- 議題第4号 諸規程等の改正について
- 議題第5号 令和3年度第2回評議員会の招集について
- 議題第6号 報告について
 - 議案第1号 職務執行状況の報告について
 - 議案第2号 第2次別府市地域福祉活動計画の進捗状況について

□評議員会の開催

第1回 令和3年6月12日（土） 決議の省略

評議員（同意）16名

- 議題第1号 令和2年度事業報告及び決算報告について
- 議題第2号 令和3年度収支補正予算（第1回）について
- 議題第3号 理事及び監事の選任について

報告について

- 報告1号 事務所建設及び建設工事に伴う入札方法等について
- 報告2号 指定居宅介護支援事業所運営規程の一部改正について
- 報告3号 評議員選任・解任委員会の委員の選任について
- 報告4号 評議員候補者の選任について

第2回 令和4年3月30日（水） 10時00分 場所 別府市社会福祉会館

出席 14名 監事出席 2名

- 議題第1号 定款の一部改正について
- 議題第2号 令和3年度収支補正予算（第2回目）について
- 議題第3号 令和4年度事業計画及び収支予算について

報告について

- 報告1号 諸規程の一部改正について
- 報告2号 職務執行状況の報告について
- 報告3号 第2次別府市地域福祉活動計画の進捗状況について

□監査

令和3年5月17日（月） 10時00分 場所 別府市社会福祉会館

結果：事業状況、収支決算状況とも特に指摘事項なし

<人材確保と人財育成>

成年後見支援体制の拡充に伴い相談支援員1名を採用し、成年後見制度を必要とする誰もが制度の利用につながるように支援体制の構築に努めました。

またリモートによる職員の勉強会や、研修に参加し、人財育成の策定計画を行うことで、計画的な人材確保等やスキルアップに取り組みました。

●職員研修受講一覧

研修会内容	参加回数
専 門 研 修	8
スキルアップ研修	19

●その他の研修

職員研修…SNS研修（6月）、人権学習（8月）、交通安全講習（11月）
 包括支援体制と地域共生社会・共生社会の実現に向けた総合研修
 9月17日～12月1日（計10回）

<会員制度の充実及び入会の促進>

レクリエーション備品の貸し出しや訪問型有償ボランティアの利用条件等、会員加入のメリットを伝えながら入会の促進に努めるなど会員の拡充強化を図りましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、前年度より特別会員は減少したものの、一般・法人会員は微増となりました。

■会費収入総額 428口 497,500円（2年度464口 516,500円）

- ・一般会費（個人一口500円）77口 38,500円（2年度71口 35,500円）
- ・特別会費（個人・団体一口1,000円）324口 324,000円（2年度371口 371,000円）
（本会役員、自治委員、民生児童委員、地区社協、福祉関係団体などの個人・団体会員）
- ・法人会費（法人一口5,000円）27口 135,000円（2年度22口 110,000円）
（福祉施設、会社、事業所等の団体会員）

<寄付金収入の拡充>

市民の方々から地域福祉の推進のために寄付された一般寄付は、寄付の多様化もあり年々減少傾向となっています。香典返しについては、新型コロナウイルスや家族葬の増加など、葬儀の形態が変化していることも影響し、寄付件数は減少となりましたが、寄付総額は微増となりました。

また、令和3年度より事業開始しましたべっぷ終活あんしんサポート事業に大口の特定目的寄付があったため、寄付金合計額では前年度を上回りました。

（単位：円）

内訳 年度	香典返し寄附金		一般寄附金		特定目的寄附金		物品寄附金		寄附金合計額	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
R3年度	143	4,896,000	57	1,431,308	1	1,000,000	2	165,500	202	7,492,808
R2年度	169	4,830,000	70	1,869,249	—	—	1	207,000	240	6,906,249

□物品寄附

- ・車いす 2件（6台） 207,000円

<補助金と受託事業の効率化>

事業費ベースの積算方法（人件費含む）の協議資料を作成し、令和3年度においても社協の担うべき事業の充実強化と組織運営の効率化、安定した財源確保に取り組むなど、別府市補助金交付指針に準じて、成果目標達成に向けて取り組みました。

◆社会福祉事業功労者表彰式の実施

活動計画 基本目標4

社会福祉関係者をはじめ、福祉意識の啓発・連帯と交流の輪を拡げ、永年社会福祉の増進に貢献された方々を顕彰するため、第40回別府市社会福祉大会「社会福祉事業功労者表彰式」を10月22日に社会福祉会館で開催いたしました。新型コロナウイルスの感染拡大防止措置のため、来賓及び被表彰者、随行者のみに出席をお願いし、被表彰者44名中21名の出席をいただき、式典及び記念撮影を行い、後日、参加者へ写真を送付いたしました。

◆別府市社会福祉会館事業【市指定管理】

福祉の拠点施設として、情報交換や福祉活動の場など広く市民福祉及び地域福祉の向上に寄与し、活用されるよう貸館業務を行っています。

昨年度に続き、新型コロナウイルスの感染予防として、アルコール消毒・定期的な換気、人数制限等を行いながら運営を行い、休館期間は、1か月間のみであった為、昨年度より利用者数は増となっております。

【利用者数】

(単位：人)

項目	大広間	小会議室	作法室	合計	免除
R3年度	6,152	1,955	188	8,295	5,261
R2年度	4,314	2,055	919	7,288	5,148

◆別府市北部コミュニティーセンター事業

市民のふれあい、福祉の増進及び、教養、文化の場として利用されることを目的として、貸会議室やトレーニング室の運営を行っています。

また、車いす・ノルディックウォークポールの貸し出しや寄附の受付、ボランティア等の養成講座を実施し、利用者の利便性の向上と情報の共有に努めました。環境整備として、トレーニング機器、照明、雨漏りの補修を実施しました。

昨年度に続き、新型コロナウイルスの感染予防として、アルコール消毒・定期的な換気、人数制限等を行いながら運営を行い、社会福祉会館に合せて、休館期間は1か月間でした。

また、台風や大雨による避難所開設は3回延べ7日間でした。

【利用者数】

(単位：人)

項目	ホール	第一会館	サークル室	娯楽室	第二会館	相談室	室計	健康器具	卓球	囲碁・将棋	器具計	合計
R3年度	3,238	508	1,819	0	64	33	5,662	3,433	732	0	4,165	9,827
R2年度	3,637	561	1,682	0	67	26	5,973	2,667	474	0	3,141	9,114

市民活動部門

<ボランティアセンター事業>

活動計画 基本目標2

住民のボランティアに対する理解を深めるための「ちょいボラ養成講座」を今年度は6回開催しました。新たなる担い手を発掘するためにも平常時から周知・啓発を図っています。加えて、各ボランティアの広報は、社協だよりや SNS などを通じて活動の様子やメンバー募集の告知などを行っています。

さらに、ボランティア相談を受ける中、ボランティア内容でカテゴリー分けした登録者や団体の中から効率よくマッチングすることで各イベントへの参加や、社協事業で実施した「ふくしフェスタ」でもボランティアが活躍しました。

また、新型コロナウイルスの影響で生活に困っている方へ支援として、7月に別府市福祉会館と北部コミュニティーセンター「あすなる館」の2か所にフードパントリーを開設し、食品支援を実施しました。

□ボランティア相談

※相談件数 10 件（令和 2 年度 79 件）

ボランティア活動全般のことに對し、適切な助言やボランティア団体への紹介を行っています。福祉施設や地域サロンでの行事等が減っている中でも、数件の演芸ボランティアの依頼があり、マッチングに成功したケースもありました。昨年に比べると新規のボランティア相談者は減少していますが、新規ボランティアグループの登録が6団体あり、環境を守る活動や子供の居場所づくり、子ども食堂を立ち上げる団体でした。

(1) ボランティア活動支援・ボランティア活動保険の加入

ボランティア活動の希望者へ活動先の紹介を行うとともに、活動を依頼する施設や地域との活動調整に取り組みました。

ボランティア活動中のボランティア自身の事故や、第三者の身体その他に損害を与えた場合など、活動時の不測の事態に備えるため、見舞金や賠償金を支払う内容のボランティア活動保険の加入受付をしています。

また、新規の登録団体のボランティア活動に参加し、内容の把握に努めました。コロナ禍でも出来るボランティアの新様式をボランティア自身で考えたり、アドバイスをすることで少しずつ活動の幅を広げています。

- ・ボランティア登録者数：49 団体 2,743 人、個人 32 人 計 2,775 人
 (令和 2 年度 47 団体 2,381 人、個人 37 人 計 2,418 人)

(2) ボランティア連絡会との連携、援助

現在コロナ禍で連絡会としての活動ができませんが、共同募金運動の街頭募金活動や、開封式には参加者の人数を制限して協力依頼をするなど、できる範囲での活動を継続しています。なお、会員減少が近年の課題ではありますが、積極的に個人ボランティアへ参加を促し、会員の増加に努めていますが、個人・団体共に加入数が増えないことが課題です。

また、令和 3 年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から懇親会は中止し、研修会は参加者を役員に限定し、少人数での実施となりました。

(団体登録 5 / 個人登録 10)

(3) ボランティア協力校への育成援助

市内の小・中・高・支援学校の児童・生徒を対象として、社会福祉への理解と関心を高め、ボランティア活動・社会連帯の精神を養うとともに児童・生徒を通じて家庭及び地域社会の福祉活動の啓発を図ることを目的に、引き続き市内の学校へ協力校募集の案内を行いました。

また、令和 3 年度は、明豊高等学校を指定校として助成を行いました。新たな指定協力校については、新年度が開始する前の早い段階からの周知・登録に努めます。

(平成 30 年度より・明豊高等学校)

(4) 夏のボランティア体験事業の実施

学生・生徒及び社会人に夏休みを中心とした一定期間に、ボランティア活動を体験することにより、自分たちが住む地域社会の福祉課題や地域課題を理解し、ボランティア活動への積極的な参加を促進し、ボランティア活動の振興を図ることを目的としています。

令和 2 年度は感染症拡大の為中止とし、今年度は 2 年ぶりの実施になりました。

95 名の参加申込がありましたが、受け入れ施設が少なく施設の方には多大なご協力を頂き実施することができました。また参加者の 9 割が市外の高校生でした。

<介護支援ボランティア事業> (別府市受託事業)

活動計画 基本目標 2

昨年に引き続き、感染症の影響でほとんどの施設が受入れ中止となりました。

そのため、80 施設のうちボランティアとマッチングできた施設は 3 施設のみでした。

□ 活動支援

区 分	令和 3 年度	令和 2 年度	令和元年度
ボランティア登録人数	26 人	85 人	145 人
受入機関数 (登録施設)	81 施設	78 施設	78 施設

□ ボランティア活動実績

区 分	令和3年度	令和2年度	令和元年度
年間活動回数	233回	241回	1,506回
年間活動人数	46人	71人	759人

□ 活動内容（複数活動再掲）

（単位：件）

活動内容	令和3年度	令和2年度	令和元年度
レクレーション等の参加支援又は補助	13	0	351
お茶出し、食堂内の配膳、下膳等の補助	0	0	680
散歩、外出、施設内の移動等の補助	0	0	52
話し相手	25	0	393
受入機関の職員と共に行う軽微かつ補助的な活動	69	78	217
行事の手伝い（模擬店、会場設営、芸能披露等）	0	1	538
その他（生け花、入浴後のドライヤー等）	270	74	804

□別府市介護支援ボランティア講演会の開催

介護支援ボランティア登録者に対しての研修と、未登録の住民に向けて事業の広報を目的として開催してきた講演会は、3年ぶりとなる対面での開催をしました。既存のボランティアのモチベーションを上げるため「笑いヨガ」の講師を招き、まずはボランティアの心身の活力を養おうと企画しました。まだ登録していない市民も参加してくれ講演会後の事業説明も聞いてもらい広報できました。会場には14名の参加者のうち3名が施設の方でした。

<ちょいボラ（訪問型有償ボランティア）事業>

活動計画 基本目標2

今年度は、大分県内でまん延防止等重点措置が適用された、1月20日より約1か月半の間ちょいボラの活動を中止し、令和4年3月7日より継続的に受けていた依頼から段階的に活動を再開しました。

また、毎月第3火曜日実施の養成講座は、4、7、9、12月、令和4年2、3月とコロナ禍ではありましたが、感染予防に気を付けながら少人数制での養成講座を開催しました。今日まで依頼者、ボランティアの双方がコロナウイルスの予防に配慮しながら無理のない範囲で活動を行い、延べ358回の活動を実施することができました。

さらに、令和4年3月19日に開催した第2回ちょいボラ意見交換会では、認知症サポーター養成講座を行う中で、ボランティア同士の交流、認知症についての理解や知識を深めることができ、ボランティアにとっても、有意義な意見交換会ができました。

一方、年間のボランティア登録者は14人と立ち上げから3年間の中で最も少ない人数となり、依頼者や関係機関の多様化したニーズと期待に応えられるほどのボランティア数を増やすことが出来ない現状が一番の課題になっています。また、ボランティアの希望する活動内容で、よく活動出来ている人と全く活動の機会がない人との差が極端になってお

り円滑なコーディネートが重要になってきています。

今後はこの課題を見直し、マッチングの効率化、ボランティアの育成強化、地域住民へ依頼者・ボランティア双方の周知活動の強化に努め、平常時から地域住民同士の支え合い活動の促進に努めていきます。さらに、現在登録しているボランティアが今後も持続的な活動ができるように交流やスキルアップの場を作り、より住民主体のボランティア事業へ近づけていきます。

□登録依頼者数と登録ボランティア数

人数			
	令和3	令和2	令和元年
依頼者	77	60	20
ボランティア	68	55	29

□相談者性別

相談者の属性			
	令和3	令和2	令和元年
男	12	20	14
女	44	48	30
その他	0	0	0
不明	5	2	8
合計	61	70	52

□新規相談者年代

年齢			
	令和3	令和2	令和元年
20代	0	0	1
30代	0	0	0
40代	0	0	0
50代	1	2	1
60代	5	8	6
70代	11	18	14
80代	28	28	17
90代	8	7	2
不明	8	7	11
合計	61	70	52

□相談件数と延べ実施回数

相談内容	相談件数			実施回数		
	令和3	令和2	令和元年	令和3	令和2	令和元年
ちょっとした草むしり	7	4	2	9	0	1
庭掃除	1	1	2	5	1	1
電球交換	1	3	0	2	1	0
ゴミ出し	3	4	3	29	43	17
家具移動	1	0	1	1	10	0
ゴミ出し家具移動	1	2	3	0	0	4
簡単な修繕作業	0	0	0	0	0	0
ふだん届きにくい掃除	23	23	8	244	163	9
お話相手	3	3	1	11	7	0
買物	3	5	10	45	47	2
見守り	0	0	5	0	0	1
声掛け	0	1	2	0	0	3
付き添い	0	0	0	0	0	0
事業の問合せ	12	10	5	0	0	0
その他	6	14	10	12	18	1
合計	61	70	52	358	290	39

□ニーズ受付

	令和3	令和2	令和元年
受理	38	44	19
不受理	2	5	16
キャンセル	0	3	6
マッチング待ち	2	3	3
事業説明のみ	11	15	8

<災害対応>

活動計画 基本目標3

大規模災害が発生した際に、関係団体と連携及び協力し、災害ボランティアセンターの被災者支援活動を効率的かつ効果的に行うことを目的とした災害ボランティアネットワークを設立しました。また、協力団体と協定を締結し、平時から情報交換や研修等行える体制づくりを進めました。

(1) 別府市災害ボランティアネットワーク設立

- ・ 参画団体：14団体（別府市含）
- ・ 日時：令和4年1月25日 設立総会開催
- ・ 場所：社会福祉会館及びリモート（ZOOMアプリ使用）
- ・ 講師：大分県社会福祉協議会市民活動支援部 森 美菜子 氏

(2) 災害ボランティア活動の連携及び協力に関する協定の締結

- ・ 令和3年 6月 2日 公益社団法人別府青年会議所
- ・ 令和3年 9月16日 公益社団法人大分県柔道整復師会
- ・ 令和3年12月20日 公益社団法人大分県建築士会別府支部

(3) 災害時職員初動マニュアル及び災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルの見直し

- ・ 平成30年3月14日に策定した「災害発生時初動マニュアル」「災害支援対策本部設置マニュアル」の改定
- ・ 平成26年3月に策定した「別府市災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル」を改定し、第2版を発行

(4) 研修会等

災害ボランティアセンター運営リーダー研修会

日時：令和3年7月1日・場所：大分県総合社会福祉会館・職員参加人数：1名

日時：令和4年3月3日・場所：大分県総合社会福祉会館・職員参加人数：1名

災害ボランティアセンター運営スタッフ研修会

日時：令和3年7月4日・場所：大分県総合社会福祉会館・職員参加人数：2名

<共同募金事業>

活動計画 基本目標4

昨年に引き続き、コロナ禍での街頭募金活動は、人数制限や手指消毒の徹底、スタンド式募金箱による非接触にて実施しました。法人募金とグルメ散歩募金の拡充に努め、依頼先を例年の3倍に増やし、増額となったが、他の募金は減少している。昨年中止した歳末たすけあい街頭募金を再開したことにより共同募金総額は、前年度比109,298円増となりました。

なお、今まで設置がなかった募金付き自動販売機を1台設置することができました。

(1) 赤い羽根共同募金

募金総額は11,036,342円で前年度比378,439円の減額であり、法人募金以外の募金が減額となっています。

令和2年度募金に係る令和3年度地域助成額は6,681,000円であり、配分については、地区社協及び各種団体へ助成を行っています。

□一般募金配分金

団体名	令和3年度	令和2年度	前年比	備考
17地区社会福祉協議会	4,650,750	5,887,500	△1,236,750	
別府市ボランティア連絡会				
別府市子ども会育成会連合会	108,000	108,000		
別府市老人クラブ連合会				
別府市身体障害者福祉団体協議会		50,000	△50,000	
別府市保護区保護司会		85,000	△85,000	
別府市更生保護女性会		50,000	△50,000	
別府市民生児童委員協議会				
別府市民間社会福祉施設連絡会				
別府市遺族会連合会		20,000	△20,000	
別府市社会福祉協議会	1,922,250	18,261	1,903,989	社協から配分
計	6,681,000	6,218,761	462,239	

2) 歳末たすけあい募金

実績額は1,609,565円で前年度比487,352円の増額でした。

地域団体や福祉施設による歳末事業に配分する為、募集をし、配分先を決定しております。街頭募金活動を再開し、増収していますが、昨年引き続きコロナ禍により従来の事業ができず、申込団体が少ない為、剰余金が生じています。

□歳末たすけあい募金配分金

団体名	令和3年度	団体名	令和2年度
地区社会福祉協議会 (1)	50,000	地区社会福祉協議会 (0)	
福祉団体 (1)	50,000	福祉団体 (1)	50,000
NPO法人 (4)	165,000	NPO法人 (3)	150,000
福祉施設 (2)	100,000	福祉施設 (3)	150,000
児童クラブ (4)	58,000	児童クラブ (4)	66,000
ボランティアグループ (2)	80,000	ボランティアグループ (0)	
社協 (子ども食堂/福祉フェスタ)	470,000	社協 (子ども食堂・広報費他)	350,000
計	973,000		766,000

地域福祉部門

<地区社協との連携・活動の協力支援>

活動計画 基本目標1・2・3（基本目標1）

コロナ禍における、各地区の地域の特色を活かした地域支援体制を強化するとともに、小地域ネットワーク活動の取り組みなど、より地域に根ざした支援や交流を行えるよう地域ニーズの収集に努め、収集した情報を基に関係機関等と協働して顔の見える関係を地区社協と築くため、活動支援と助成支援を行いました。

地区社協への助成金については、コロナ禍のなか、感染症予防対策による活動自粛で事業中止により不要となった事業費が生じたものの、助成金の返還は求めずに、次年度に繰越すこととしました。

出前講座や福祉用品貸出については、コロナ禍のなかでも要請のあったサロン等へ貸出等を行うとともに、活動再開を模索する地区へ提案するなどしてサロン活動の支援をしました。

いきいきサロン実施地区においては、サロン取材をおこない「社協だより」等、広報誌を読まない若い世代へSNSを活用した広報活動をするとともに、看護学生の教育実習といきいきサロンの仲介を行うことで、通常は接点の少ない学生と地域を繋ぐ支援をしました。

また、コロナ禍のため、12月の歳末街頭募金活動以外の統一活動ができないなか、「別府市ふくしまつり」の代替イベントとして「コロナに負けるな！べっぷふくしフェスタ」で福祉団体の動画撮影に参加し、オンラインを通じて他の福祉団体と繋がる活動が出来ました。動画配信が好評で、当初1ヶ月の配信予定でしたが、現在も社会福祉協議会HPで視聴できるよう掲載を継続しています。

福祉協力員研修や、令和2年度に実施できなかったモデル地区（6ブロックを選出）でのワークショップについては、度重なる自粛要請やまん延防止等により1地区のみ実施となり、残り2地区は令和4年度へ繰越となりました。次年度には担当地区だけでなく、圏域にも参加してもらう事で、ワークショップを行うことから広域での連携を始めたいと、コロナ禍を意識した地域活動の様々な手法を見直しながら、「つながり」「かかわりあい」を途切れさせない活動を行い、地域の課題の洗い出しや解決策を模索します。

・地区社協連絡協議会

開催日	場所	内 容
令和3年4月13日	福祉会館	・「第71回社会を明るくする運動」について ・令和2年度助成金報告書について ・令和3年度事業計画について ・令和3年度助成金について ・福祉協力員「地域福祉講座」について
令和3年7月2日	福祉会館	・地区社協・福祉協力員県外研修の実施について ・ワーキング研修実施について
令和3年11月11日	福祉会館	・別府市災害ボランティアネットワーク協議会への加入について
令和4年3月15日	福祉会館	・決算書報告書様式改定について 令和4年度予算・事業計画について ・地区社協・福祉協力員県外研修について

・地区社協役員会

開催日	場所	内 容
令和3年 6月 11日	福祉会館	・地区社協・福祉協力員県外研修実施の可否について ・令和3年度モデル地区ワークショップ実施について
令和3年 8月 6日	福祉会館	・災害ボランティアネットワーク参入について
令和3年 10月 26日	福祉会館	・別府市災害ボランティアネットワーク協議会への加入について
令和4年 2月 22日	福祉会館	・決算報告書様式改定について ・令和4年度予算・事業計画について ・地区社協・福祉協力員県外研修について

・地区社協事業

開催日	場 所	内 容
11月 18日	福祉会館	組立式募金箱開封式(開封作業協力)
11月 9日～ 12月 4日	市内各所	ころなに負けるな！べっぷふくしフェスタ 動画撮影 12月 15日～別府市社会福祉協議会HPにて福祉動画配信開始
年間	市内	いきいきサロン 5地区

◇福祉協力員活動への協力・支援等

地域での互助を充実させるため、新たな担い手の発掘を目的とした講座や研修会のコーディネート福祉協力員連絡協議会と連携しながら、福祉協力員を対象にした研修等を開催しています。

昨年度に続き今年度も、コロナウイルス感染症の影響により、例年7月に行っている連絡協議会を延期に次ぐ延期で11月に開催。研修会も、感染症対策のため参加者を各地区2名に制限して実施しました。また、例年3月に行っている「地域福祉講座」は、災害ボランティアネットワーク設立及び本市を含む、広範囲で地震が発生していることから「災害」をテーマとした研修を行いました。

加えて、昨年度延期した、モデル地区によるワークショップは6地区から3地区に計画変更しましたが、実施できたのは1地区でした。実施した地区においては、ワークショップでの地域課題をもとに、次年度地域を巻き込んだ研修を検討しています。また、残る5地区については、4年度にワークショップと研修を実施する計画です。

・福祉協力員研修会

開催日	場 所	内 容
令和3年 11月 25日	福祉会館	「ほめる達人という生き方で、笑顔、元気に」 口ほめる教育研究所 所長 竹下 幸喜
令和4年 3月 28日	福祉会館	「地域福祉講座」 災害ボランティア及び災害ボランティアセンターについて 別府市社会福祉協議会 吉本 敬志 そなえちょこっと！プロジェクト防災講座 ～平常時にこそ準備し体験を～ そなえちょこっと！プロジェクト 明石 佳子

<生活支援体制整備事業> (別府市受託事業)

活動計画 基本目標 1・2

令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症の影響が続いている状況の中、地域活動の休止が継続しており、自治会をはじめとする住民との対話がなかなかできなかったため、企業や福祉団体、福祉施設、学校等との連携を強化し、アフターコロナ・ウィズコロナに向けての準備を行うことが主となりました。

主な取り組みとして、社協のホームページ内で SC の活動紹介を始めたり、市内各圏域での出張スマホ教室の推進、ひとまもりまちまもり協議会と連携できるように「別府市協働のまちづくり推進委員会」の中で本制度の広報を行いました。なお、大分県から推奨されたスーパーバイザー松川氏の伴走型支援を受けて、既存の取り組みにアドバイスをもらったことで、今後の取り組みの参考になりました。

また、SC 版地域ケア会議を実施し、個別事例の中で本事業において取り組んでいくべき課題を SC や専門職の方と協議・検討しました。

□生活支援コーディネーター活動実績 活動合計 123 件

- ・高齢者の生活に係る地域資源の把握 16 件
- ・地域に不足する生活支援サービスの創出 3 件
- ・関係者間の情報共有及び生活支援サービス提供主体間の連携体制づくり等ネットワーク構築 47 件
- ・協議他の創出 3 件
- ・協議体への参加 21 件
- ・広報誌等の作成・配布 1 件
- ・講演会等の開催 1 件
- ・コーディネーター研修会等への参加 31 件

<別府っ子応援事業>

活動計画 基本目標 1

「活動支援」5 件は全て準要保護世帯で、昨年度まで大多数を占めていた関係施設からの申請は、今年度はありませんでした。「奨学金支援」の決定については、別府市奨学生選考委員会の審査方法に準じ 20 名を選定、累計 55 名の支援をいたしました。また、コロナ禍でも、十分に感染対策をし、活動を行った子ども食堂 6 件に対し相談支援を行いました。

福祉教育の訪問ワークショップは、コロナ禍ではありましたが、人権擁護に詳しい弁護士を講師に迎え、中学校 1 校へ 1 回。ユニバーサルデザイン、車いす体験、盲導犬については、協力団体より講師を迎え、小学校 1 校へ 2 回と計 3 回訪問を行いました。

コロナ禍で学校からの申請がない状況ではありましたが、学習支援を兼ねたパラスポーツ体験の福祉教育「学んでみよう！別府っ子～パラスポーツと障がいについて～」を初めて別府社協にて実施しました。延べ 50 人が参加し、訪問よりも具体的でより細かい福祉教育を実現できました。また、本事業に賛同していただいた 1 団体より、別府っ子応援アクションとして、15,681 円の寄附をいただきました。

事業名	事業内容	実績
活動支援	小・中学生を対象に経済的な事情でスポーツ、文化、芸術活動などの子ども達の意欲やチャンスを妨げないために、活動経費の一部を支援します	小学生 2件(34,500円) 累計 10件(165,500円)
		中学生 3件(87,500円) 累計 8件(203,200円)
奨学金支援	高等学校へ進学する学生を対象に、経済的な事業により修学意欲を妨げないために、奨学金として支援します	20名選定 (1件 30,000×20) 累計 55名(進級 35名含)
子ども食堂支援	様々な事情による子どもの孤食や欠食を防ぎ、地域ぐるみで子どもを大事にする取り組みと経費の一部を支援します	5件 100,000円助成
福祉教育の推進	児童生徒に福祉教育を通じて、自立した個人がお互いにその存在を認め合い、関わりを大切にしながら生きていく「ともに生きる」という考えを大切に、技術や知識だけでなく、【生きる】、【いのち】、【障がい】、【老い】などについて考える場を推進します	中学校で人権講座 1回 小学校で福祉授業 2回 青中 1回・山の手小 2回
別府っ子応援アクション	児童生徒に福祉教育を通じて、豊かな心を誰もが安心して暮らせる社会を創造する力を育むとともにボランティア活動へのきっかけづくりへ繋がります	15,681円(1団体) 累計 5件 526,591円

◆福祉まつりの開催

活動計画 基本目標 2

福祉まつりについては、昨年に引き続きコロナの影響を考慮し、中止をしました。

そこで、福祉まつりに代わるオンラインでの参加型のイベントとして「コロナに負けるな！べっぷふくしフェスタ」を開催しました。「福祉団体リレー動画」「ボランティアによる演技・演奏動画」「ふくしチャリティーオークション」「コロナを吹き飛ばせ！千羽鶴傘」、の4つのイベントを令和3年12月15日から令和4年1月16日にかけて実施し、市民の方と様々な福祉関係者の方との「つながり」「かかわりあい」を途切れさせないようにするため、多くの方に参加していただきました。

◆民間社会福祉施設との協働

活動計画 基本目標 1

市内47民間社会福祉施設の連絡会の事務局として、各施設との交流・研修等を行い連携の強化に取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、総会を書面決議とし、年間を通じて実施していた、火の海まつりへの参加、親睦スポーツ大会、共同募金運動への協力、研修会は実施できませんでした。代替イベントの開催も協議したものの、高齢者施設・障害者施設、保育・児童施設はコロナ対策における対応に追われているため、今年度の実施は断念しました。

◆車いすの貸出し事業の実施

活動計画 基本目標 1

在宅福祉を希望される方で、車いすが必要な方に無料で貸出を行っています。今年度はホームページや広報誌で積極的な周知を行ったことで、あすなろ館での貸出件数も増加しました。貸出申請書の印鑑省略など簡素化を図り、地域住民の社会参加支援ため公共施設と町内公民館、ワクチン接種会場の別府アリーナへの累計 20 台を含め、計 40 台の継続貸出をしています。今後も、必要とされる施設があれば貸出をしていきます。

今年度から、貸出車両返却後にチューブタイヤに関しては、順次ノーパンクタイヤへ交換し、今年度は 5 台の交換を行いました。

○令和 3 年度貸出し件数 383 件 （令和 2 年度貸出し件数 340 件）

◆レクレーション、福祉備品貸出事業

活動計画 基本目標 2

本事業については、社協だより等により積極的な広報活動により、備品の貸出しに繋げることで、コロナ禍での地域や近隣におけるふれあい、交流事業、各種研修を行うグループ・団体活動の活性化や住民間交流の促進を図ることができました。

さらに、福祉施設等の新人職員研修での利用もあり、施設との連携も進みました。

貸出の実績としては、老人会（4 クラブ 5 件）・施設関係（1 施設 2 件）・子ども食堂等（2 団体 2 件）・地域サロン（2 町 8 件）・福祉団体（3 団体 12 件）スポーツ団体（1 団体・1 件）となっています。貸出した団体等への聞き取り等により、福祉備品のニーズ把握と整備を図りながら、今後も地域の実情に即した活動の支援に取り組みます。

◆紙オムツ低価格斡旋事業

活動計画 基本目標 1

共同募金一般募金配分金から在宅で紙オムツを必要とする高齢者に低価格で斡旋していますが、年々需要が減少しており、令和 3 年度は 5,250 円の助成にとどまりました。

このため、事業効果等について関係機関と協議し、本事業は今年度にて廃止し、新たに協働で出来る事業の検討を行いました。

◆一人暮らし高齢者への乳酸菌飲料の配布声かけ運動の実施

活動計画 基本目標 1・3

一般募金配分金からひとり暮らしの高齢者（70 歳以上）で近親者が近くに居住していない方に対し、乳酸菌飲料の配達を通じて安否確認と、孤独感の解消、健康保持を行うことを目的として行っています。

令和 3 年度は延べ 95 名に 1,169 本配布しており、前年度より 48 名、624 本減少、令和 3 年度支払い金額は 43,253 円でした。（令和 2 年度金額 66,341 円）

また、今後の事業拡充に伴い、利用者の現況確認をしたところ入院等による生活状況の変

化のため、6名が対象外となりました。

地域での見守り・支援体制の充実・強化の観点から、民生委員・児童委員等との連携を図りながら、また認知症地域支援推進員の活動とも合わせて真に必要とする人に対し地域社会から孤立することを防止するとともに、日常生活における問題を早期発見し、住み慣れた地域で安心した生活を確保できるように事業周知を再度徹底し、今後も事業拡充し継続的に支援していきます。

◆福祉ちょっと知っところ出前講座

活動計画 基本目標2

福祉活動推進のお手伝いをすることや福祉に興味を持っていただくことを目的に、自治会、サークル・団体、会社等からのご要望に応じて社協職員及び関係機関等の職員やボランティアが地域に出向いて講座を行なうことで、地域における情報発信や、新たな担い手の発掘・育成支援をするとともに地域住民による支え合いの福祉のまちづくりに繋がっています。

コロナ禍のなか度重なる自粛要請やまん延防止等により、サロンや事業所からの度重なる日程変更の結果、延期や中止となることが何件もあり、地域におけるサロン活動等が制限されているなかでしたが、実施回数は昨年度の2倍となりました。

また、実施された講座のなかでは、昨年同様、権利擁護（成年後見・終活）に関する問い合わせが多く、そのなかでも、事業所からの相談・申込が増えています。

【実施状況】

団体	地区社協他	民児協	老人クラブ	自治会サロン	ボランティア	事業所	学校	一般	合計
回数	1	2	0	4	1	2	0	1	11

講座	認知症	社協概要等	権利擁護	介護保険	ちょいボラ	健康教室	合計
回数	1	2	7	1	0	0	11

生活支援・相談部門

<包括的な相談支援体制基盤の確立>

活動計画 基本目標1・3

複合的で複雑化した多様なニーズに対して、電話相談や面談、アウトリーチを交えながら、多職種他機関と情報共有を行い継続的な支援を必要とする方へ伴走型支援を行うとともに、課題解決に向けて包括的な相談対応が行えるよう相談支援ネットワークの体制の拡充をすすめ、ワンストップでの対応に取り組んできました。

また、これまでの終活相談等を通じて切実な声が寄せられてきた身寄りのない方々の身上保護や死後事務等の問題について、法人後見受任や「べっぷ終活あんしんサポート事業」を創設し、相談と施策を一体的に展開し、「身寄り問題」の解決に取り組んでいます。

(1) 法律相談（毎月 第1火曜日）

※相談件数 109件（令和2年度122件）

財産や相続等生活上のトラブルに関する法律的問題について、弁護士による適切な助言、関係機関等への紹介を行いました。

年度	相続遺言	家族関係	契約関係	近隣関係	損害賠償	登記関係	その他	小計	助言解決 他機関調整	合計
R3	20	17	12	8	6	5	5	73	36	109
R2	21	15	13	9	5	5	6	74	48	122

前年度と比較し、問い合わせ・相談件数は減少傾向となっています。市内の法律事務所による無料相談のほか、法テラス、消費生活センター、司法・行政書士会等専門職の無料専門相談が年々充実しており、社会福祉協議会による法律相談の役割も薄れてきたことにより、令和4年度より廃止することとしました。

(2) 終活相談（毎月 第3木曜日ほか随時対応）

子どもがいない、または親族と疎遠な高齢者の方が、病気や介護が必要になった時の身の回りの世話や死亡後の葬儀・納骨・遺品整理などについて相談が寄せられています。

主な相談内容	令和3年度	令和2年度
福祉サービス利用の仕組みと要介護に備えた資産運用の方法	15	18
遺言書の書き方と遺産の処分方法	26	23
任意後見契約の内容の説明と相談先の紹介	16	14
死後事務委任契約の内容の説明と相談先の紹介	24	22
後見制度利用の判断に関すること	11	4

※相談件数に重複相談あり

<生活困窮者自立支援事業>（別府市受託事業）

活動計画 基本目標1・3

新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中、経済的に生活が困窮する方に対して、特例コロナ総合支援資金貸付等の申請者への生活状況の確認、特例コロナ住居確保給付金の受付、生活困窮者自立支援金給付者に対する相談を行いました。

新型コロナウイルス感染症による影響を受けていないものの、困りごとを抱える相談者やコロナ特例貸付、各種給付金等の終了者で継続した困りごとを抱える相談者については、一緒に困りごとの内容の把握や整理を行いました。困りごとの改善が困難だと判断された相談者は、行政関係機関、障がい者・高齢者支援機関、医療機関等と職種や事業所の垣根を越えた情報共有や物的支援、専門機関への同行支援を行うなど、途切れないつなぎに努め「伴走型の相談支援」を実施しました。

また、多職種他機関との連携のため、必要な情報共有や地域の専門職同士の学習会を通じてネットワーク構築に努め、支援を必要とする方の早期発見と支援が届きやすい環境づくりに取り組みました。

新規相談者の傾向として、相談人数は減少しているが一人で困りごとを抱えている割合は増加傾向です。特例コロナ関連の生活状況の確認をする中で、相談者との関係性が構築でき、より詳細な困りごとについての相談が行いやすい人間関係が形成できたことが要因と思われます。今後、コロナ特例関連の制度も対象外となる方が増え、より一層多職種他機関との連携の必要性が高まると考えられます。

□ 相談者一覧（実人員）

区分	令和3年度	令和2年度
新規相談者	252	487
住居確保給付金支給者	0	1
合計	252	488

□ 新規相談内容（実人員） ※複数あり

相談内容	令和3年度	令和2年度
病気や健康、障害のこと	59	79
住まいについて	48	113
収入・生活費について	133	183
家賃やローンの支払い	37	40
税金・公共料金の支払い	13	12
債務について	18	17
仕事探し、就職について	23	38
仕事上の不安・トラブル	4	3
地域との関係について	2	2
家族との関係について	13	10
子育てのこと	2	8
介護のこと	5	11
ひきこもり・不登校	6	8
DV・虐待	5	3
食べる物がない	39	34
その他	122	216
合計	529	777

□ 相談者の世帯

世帯	令和3年度	令和2年度
単身世帯	122	255
家族世帯	102	182
その他	37	50
合計	252	487

□ 新規相談方法

相談方法	令和3年度	令和2年度
電話	102	250
来所	148	232
訪問	2	3
その他	0	2
合計	252	487

□ 新規相談の者の属性・年代

年代	令和3年度	令和2年度
10代	0	0
20代	22	40
30代	14	50
40代	33	74
50代	47	76
60代	40	83
70代以上	44	79
不明	52	85
合計	252	487

□ コロナウイルスの影響による相談者数一覧（単位：人）

相談者数	5,290
住居確保給付相談者数	1,581
住居確保給付申請者数	727
住居確保給付継続支援延べ人数	341
自立支援金申請者数	478

<権利擁護支援の地域連携ネットワーク構築事業> (別府市受託事業)

活動計画 基本目標3

権利擁護支援の地域連携ネットワークの中核機関として、「別府市成年後見支援センター」(令和2年12月1日設置)は、成年後見制度を必要とする人誰もが制度の利用につながるよう支援体制の構築に取り組むとともに、成年後見制度への理解を深めてもらうため市民や専門職等を対象に普及啓発を行なったほか、後見業務の新たな担い手として期待される市民後見人の養成講座を開催しました。また、令和3年度から法人として後見受任を始め、個人後見が困難な事案や後見報酬が見込めない方も成年後見制度利用を通して安心して地域生活が送られるよう取り組んでいます。

(1) 別府市成年後見支援センターの設置・運営

① 運営委員会(弁護士/司法書士/社会福祉士/医療福祉関係者/民生委員/行政等13名)

第1回 令和4年3月23日(水)

② 受任調整委員会(弁護士/司法書士/社会福祉士/医療福祉関係者/行政等10名)

第1回 令和3年 5月21日(金) 審議案件4件

第2回 令和3年 7月16日(金) 審議案件1件

第3回 令和3年 9月17日(金) 審議案件8件

第4回 令和3年11月19日(金) 審議案件8件

第5回 令和4年 1月21日(金) 審議案件9件

第6回 令和4年 3月17日(木) 審議案件5件

【受任調整件数】

区分	件数	後見人等
高齢者関係	30	弁護士、司法書士、社会福祉協議会
障がい者関係	5	弁護士、司法書士、社会福祉士、社会福祉協議会

(2) 総合相談

延べ相談件数	書類作成支援	同行支援	任意後見相談件数
214	22	21	24

※任意後見相談件数は終活相談件数で、延べ相談件数の外数

(3) 成年後見実務担当者研修会の開催(相談機関等専門職を対象とした研修会)

- ・開催日時 令和3年 8月19日(木) 13:30～ 別府市社会福祉会館
- ・参加者 78名(会場参加7名、オンライン参加71名)
- ・内容 【基調講演】「身寄り問題から成年後見制度の有効性と限界について考える」

講師; NPO法人つながる鹿児島 代表理事 芝田 淳

【実践報告】「別府市成年後見支援センターの取り組み状況」

(4) 市民後見セミナーの開催

- ・開催日時 令和3年10月30日(土) 13:00～ 別府市社会福祉会館
- ・参加者 70名(会場参加44名、オンライン参加26名)
- ・内容 【基調講演】「お互いさまの市民後見、本気で取り組む具体策」
講師；一般社団法人後見の杜 代表 宮内康二
【実践報告】社会福祉法人 別府市社会福祉協議会
別府市成年後見支援センター活動報告

(5) 人材育成

① 第3回 市民後見人養成講座(基礎課程)の開催

- ・開催期間 令和3年12月11日(土)～令和4年3月5日(土)
- ・開催日数 集合研修1日(4時間)、ライブ配信1日(4時間)、
オンデマンド録画配信及び自宅学習(40時間)
- ・受講者数 16名(女性10名、男性6名)
- ・修了者数 13名(最終面接者数13名) 平均年齢56.1歳

② 第2回 市民後見人養成講座(専門課程Iフォローアップ研修)の開催

- ・集合研修(全4回) 10/30(土)、11/6(土)、11/20(土)、12/4(土)
- ・オンデマンド動画配信1回
- ・対象者数 46名

(6) 法人後見事業

令和4年3月現在 受任者数 10名

【類型別受任状況】

年度	補助	保佐	後見	合計
令和3年度	1	3	6	10

(7) ベっふ終活あんしんサポート事業

任意後見契約件数	2
死後事務委任契約件数	3

<生活福祉資金・臨特つなぎ資金> (大分県社協受託事業) 活動計画 基本目標1

貸付の傾向としては、コロナ禍での就職難から、一時的な生計維持を目的とした緊急小口のニーズが減少、福祉費は昨年度と比べ要保護世帯の日用品購入のための貸付申請件数が増加しています。教育支援資金は、高校等の入学試験に合格しても、入学金等が準備できない世帯に対する貸付で、今年度は年度末の新規相談が増えており、今後とも、他機関と連携し、負の連鎖から子どもを切り離す貸付として支援をしていきたい。

令和2年度に始まった、コロナ特例貸付の申請期限延長を受け、今年度も引続き、相談・申請事務対応を行いました。相談支援期限の延長が繰り返される中、資金種類は、6月に総合支援資金(延長)、12月に再貸付が終了となり、4月から償還開始も始まる予定でしたが、コロナ禍の収束が見通せない状況から1年超の償還開始猶予が行われるとともに、7月より生活困窮者自立支援金給付も始まり、自立相談支援センターとも連携しながら、貸付相談等を行っています。

令和4年度も、8月末まで申請期限の延長が決定し、特例貸付については、貯え等で生活してきた世帯からの新規貸付相談が増えている状況です。

<臨時特例つなぎ資金> (大分県社協受託事業)

活動計画 基本目標1

令和3年度より大分県社協直営事業のため、受託なし

生活福祉資金受付実績

(単位：円)

貸付資金種類		令和3年度				2年度	
		申請状況		決定状況		決定状況	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額
総合支援資金	生活支援費					3	1,200,000
	住宅入居費					1	63,500
	一時生活再建費						
福祉資金	福祉費	25	2,291,000	25	2,242,000	20	4,282,000
	緊急小口資金	17	1,570,000	17	1,570,000	34	3,220,000
教育支援資金	教育支援	7	1,466,000	7	1,463,000	5	1,473,000
	就学支度費	11	2,779,000	9	2,102,000	8	1,858,000
不動産担保型生活資金	不動産担保型生活資金						
	要保護世帯向け不動産担保型生活資金						
臨時特例つなぎ資金						1	100,000
合計		60	8,106,000	58	7,377,000	72	12,196,500

コロナウイルス感染症関連特例貸付資金受付実績

(単位：円)

貸付資金種類		令和3年度				2年度	
		申請状況		決定状況		決定状況	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額
福祉資金	緊急小口資金	583	116,150,000	581	115,950,000	1,664	330,150,000
総合支援資金	生活支援費	522	273,550,000	532	278,350,000	1,365	702,550,000
総合支援資金(延長)	生活支援費	219	113,550,000	242	125,550,000	748	388,620,000
再貸付	生活支援費	665	346,800,000	730	380,250,000	380	197,550,000
合計		1,989	850,050,000	2,085	900,100,000	4,157	1,618,870,000

◆福祉資金貸付事業

活動計画 基本目標1

別府市社協独自財源で低所得者世帯を対象に、50,000円を限度額とした貸付事業です。

近年の相談者の大多数は再就職による初回給料までの生活費や要保護世帯のエアコン購入相談など本制度貸付限度額以上の資金を必要とするため大分県社会福祉協議会から受託し

ている生活福祉資金で対応することになり、27年度から申請相談がない状況です。

なお、受託事業貸付制度の対象外案件のため事業継続を行っていますが、今後の課題として2件の収入未済額の借受者への償還依頼について支障をきたしている状況で、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、督促発送などを行いましたが収納にいたりませんでした。今後も完済に向けて引き続き償還指導をおこないます。

・対象者 低所得世帯 ・貸付限度額 50,000円 (単位:円)

区分	貸付件数	貸付額	調定額	収入済額	不能欠損額	収入未済額	収納率(%)
過年度 (H15~H24)	2	100,000	29,000	0	0	29,000	0

※過年度償還完納 0件 次年度繰越収入未済 2件

<日常生活自立支援事業> (大分県社協受託事業)

活動計画 基本目標3

成年後見制度と並ぶ権利擁護支援の重要な制度として、認知症や知的・精神障害などのために判断能力に不安を抱える方が、住み慣れた地域で安心して生活できるよう、福祉サービスの利用手続きや日常的な金銭管理に関する助言や手続き代行等の援助を行いました。

認知症の一人暮らし高齢者世帯等をはじめ、自立生活を目指す知的障がい・精神障がいの若い世代の方からの問い合わせも年々増加しており、引き続き支援体制の充実に努めていきます。

□初回相談受付の状況 (令和3年4月~令和4年3月)

年度	認知症高齢者等	知的障害者等	精神障害者等	その他	合計
R3	65	12	34	32	143
R2	61	9	27	16	113

□契約締結の状況 (令和3年4月~令和4年3月)

年度	年度当初 契約件数	新規契約件数	解約件数	年度末 契約件数
R3	82	40	17	105
R2	59	35	11	82

□日常生活自立支援事業利用状況 (延べ人数・件数)

区分	3年度	2年度
利用者数 (人)	1,172	828
利用回数 (回)	2,444	1,719
預り件数 (件)	1,172	828

□世帯別利用状況

年度	一般世帯			生活保護世帯			合 計		
	人数	回数	預件数	人数	回数	預件数	人数	回数	預件数
R3	442	720	442	730	1,724	730	1,172	2,444	1,172
R2	259	391	259	569	1,328	569	828	1,719	828

◆認知症地域支援・ケア向上推進事業

認知症サポーター養成講座は少人数での毎月開催を始めて1年が経過し、次第に市民に定着してきました。感染症の拡大や、天候の関係で止む無く中止にした回もありましたが、市報や社協だよりでの広報に加え、認知症に対しての意識の変化の影響も追い風になり、受講希望者の増加がみられました。市民向けに9回、ボランティア向けに1回の養成講座で79名のサポーターを養成することができました。また、今年初めての試みとなるVR（バーチャルリアリティ）を使った県内初となる認知症のキッズ向け授業を南小学校で開催し、通常と違う視点で認知症を体感し興味を持つきっかけが作れました。

さらに、高齢者ひとり歩き声かけ模擬訓練においては、亀川地区社協を通じて古市町で4回にわたり認知症勉強会を開催し、最終回には室内での声かけ訓練をすることができました。

【参加・実施回数】

		令和3年度	令和2年度	令和元年度
地域活動	オレンジカフェ別府	3	3	9
	認知症市民講演会	1	0	1
	認知症高齢者ひとり歩き声かけ模擬訓練	1	0	1
	別府市地域ケア会議	10		
連絡会	キャラバンメイト連絡会		1	0
認知症サポーター養成講座	企業			
	地域	10	3	
	小中学校			3
	高校・大学等			
事業説明	地域向け			2
	多職種、事業所	1		
出前講座	地域	4	1	5
	学校	1		
	その他	1		
個別支援	訪問等(2世帯)	6		
相談	電話と来館者	8		

<認知症総合支援事業> (別府市受託事業)

活動計画 基本目標3

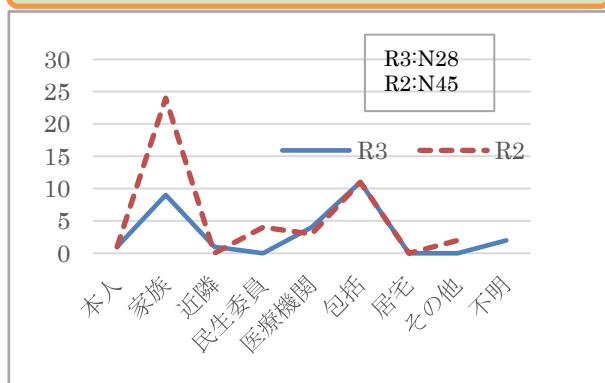
◆認知症初期集中支援事業 (R3年度 新規相談件数-28件)

令和3年度の新規相談件数は前年度比60%でした。これは、コロナの影響に加え、広報の頻度が減少したため、家族からの相談や、新規相談が減少しました。また、令和3年度は、若年性認知症の相談がなく障害者分野の連携は殆どありませんでしたが、地域包括支援センターから多くの処遇困難事例の相談が寄せられ、問題解決までに長期化する傾向ですが、連帯感を高めながら連携することができました。さらに、行政、チームドクター等と検討を重ね、地域の方々の協力を得た対応が出来ました。今後も、処遇困難事例に対応するためのアセスメント力・対応力向上のため研鑽に努めます。

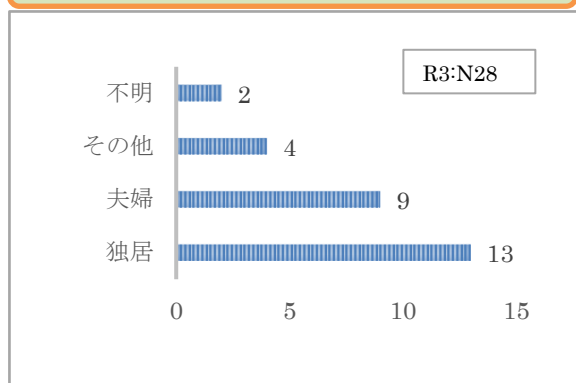
加えて、前3年間の統計の結果、初期集中支援チームから居宅介護支援事業所等に繋いだケースにおいて、40%も介護サービス利用継続に至っていない事が分かりました。

今後は、サービス利用の継続ができるよう居宅等と密に連携を図り、画一的な連携方法ではなく、引継ぎ先に応じた動きを行っていきます。

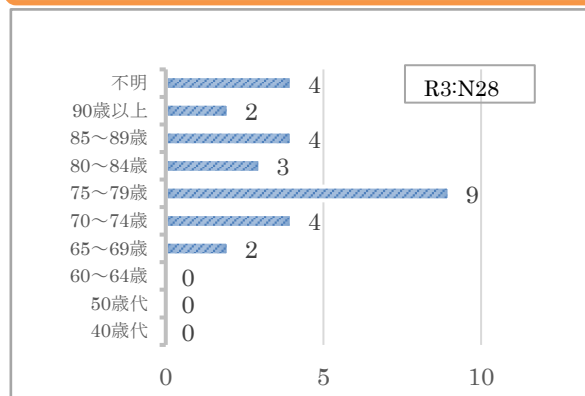
1.新規相談経路 (前年度対比)



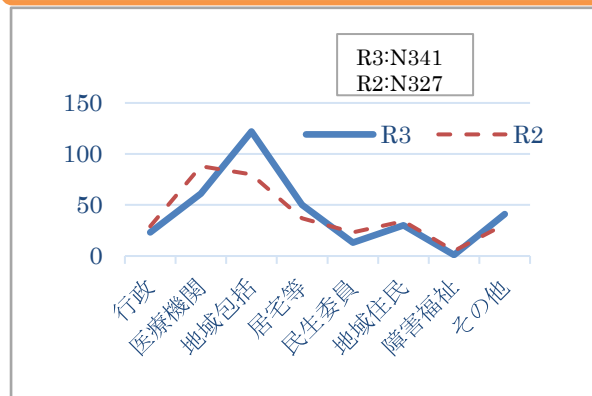
2.新規相談 世帯構成 (R3年度)



3.対象者年齢 (R3年度)



4.関係機関 (前年度対比)



<居宅介護支援事業>

活動計画 基本目標3

令和3年度についても、引き続き地域の介護資源の把握や地域福祉主体の運営及び事業展開を視野に居宅介護支援事業の拡充に努めました。

積極的に研修を受講し困難事例の新規受け入れを行った結果、職員のスキルアップが図られ、計画作成数が145件増加となりました。また、感染症や自然災害が発生した場合でも、介護サービスを安定的に継続させるため業務継続計画（BCP）を2023年度内までに作成する事が義務づけられたため、令和3年度は準備期間と位置づけBCP策定に関する研修会の参加や居宅介護支援専門員協会の情報収集に努めました。加えて「地域包括ケアシステムの構築」を目ざし、社会資源の発掘及び地域関係者との結束を強め、地域内でサポートし合えるよう地域のネットワークを確立するための体制の増強にも関わっていきました。

		令和3年度	令和2年度	前年比
計画作成	介護	641	496	129.2%
	予防	74	91	81.3%
訪問調査	別府市	42	28	150.0%
	市外		2	0.0%

《附属明細書》

上記の事業報告に関して、社会福祉法施行規則第2条の25第3項に規定されている附属明細書については、その内容を補足すべき重要な事項はありませんので附属明細書は作成しておりません。

【社会福祉法施行規則第2条の25第3項抜粋】

(事業報告)

社会福祉法第2条の25 法第45条の27第2項の規定による事業報告及びその附属明細書の作成については、この条の定めるところによる。ただし、他の法令に別段の定めがある場合はこの限りではない。

2 (略)

3 事業報告の附属明細書は、事業報告の内容を補足する重要な事項をその内容としなければならない。